

基調講演「無形文化遺産と地域コミュニティ」

講演要旨

第 32 回の UNESCO 総会において「無形文化遺産の保護に関する条約」が採択されてから 16 年。条約に含まれる「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」への記載が、地域社会の一喜一憂を誘い、社会現象化する一方で、無形文化遺産への人びとの関心の高まりが、地域のコミュニティで育まれてきた知識や技術、祭や芸能の再発見を促し、人びとのあいだに地域への誇りを醸成することにつながったのは間違いない。自らと自らの文化に誇りをもってはじめて、人は、直面するさまざまな課題や困難に立ち向かうことができる。この講演では、無形文化遺産をめぐる世界各地の動きを通観し、持続可能な社会の実現に向けて、有形・無形の文化遺産の創造的継承が果たす役割を考える。

吉田憲司氏プロフィール

1980 年に京都大学文学部哲学科を卒業後、1989 年に大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。学術博士（大阪大学）。大阪大学文学部助手を経て 1988 年より国立民族学博物館に勤務。2017 年国立民族学博物館長に就任。2019 年民族芸術学会会長。専門は、アフリカにおける造形と儀礼の人類学的研究及び博物館・美術館における文化の表象のあり方の研究。無形文化遺産に関する主な著書に『文化の「発見」』（岩波書店 1999,2014）、Preserving the Cultural Heritage of Africa : Crisis or Renaissance? (Yoshida, Kenji and John Mack eds., James Currey and UNISA Press, 2008)など。